

— 目 次 —

<特 集>

これからの健康づくりと
栄養

—農村における健康管理と栄養—

- ◆ 農山村の栄養改善をどう進めるか...10
- ◆ 国民栄養調査からみた県民の栄養...14
- ◆ 成人病対策の現状.....28
- ◆ 母と子の保健と栄養.....31
- ◆ 蓄積疲労のない農村生活へ.....34

■ ここに人あり ■

婦人運動の「小さな歯車」.....25

親と子の体力づくり (湯浦町の場合)
伊藤基記.....26

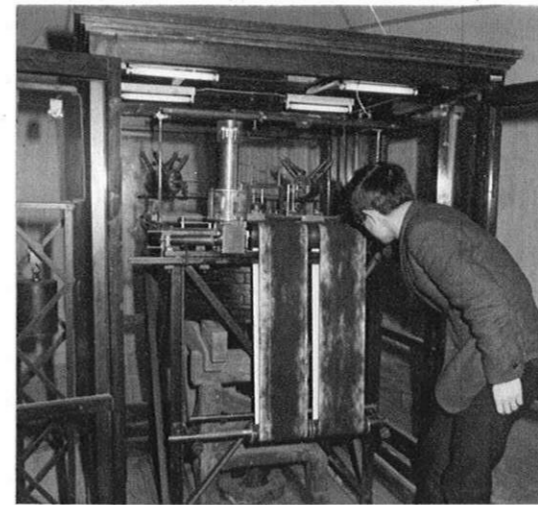
■ 薫風に健康をのせて.....36
— 県栄養指導車の活躍 —

★ 随 想 ★
平塚泰蔵・坂田憲雄・赤池元則..... 6

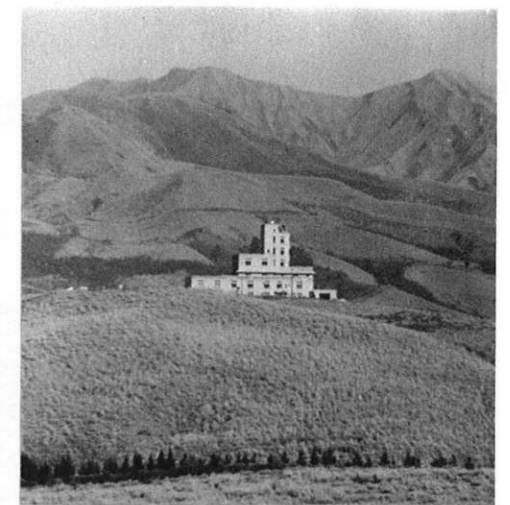
★ グラビアページ ★
健康をつくる人びと・県政ハイライトほか

★ センターカラー.....八代外港

★ 表 紙.....天草・崎津の印象



▲ 研究所の中でいちばんスケールの大きい地震計。



▲ 観光バスの窓からも見える火山研究所。

火の山の科学者 — 京大火山研究所の仕事

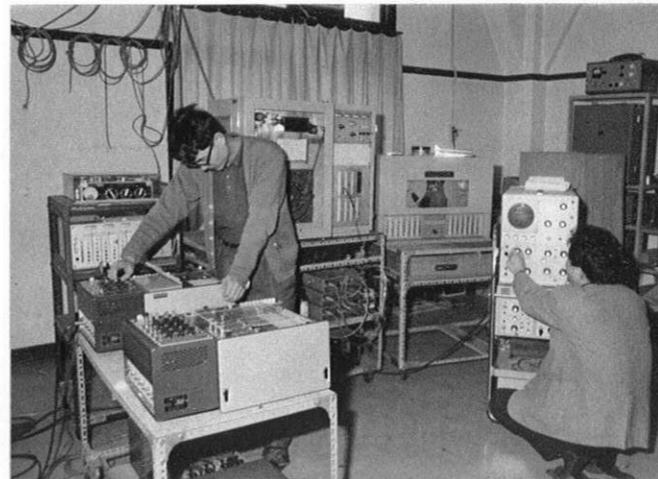
かねては美観を誇り、観光のメツカ的存在である阿蘇山も、時には危険このうえない。最近、大爆発を起したのは昭和二十八年、三十三年、四十年の三回、死者十七人、負傷者百十八人を出している。

阿蘇山をたえず観測し、研究するという地味な仕事をしているのが「京大火山研究所」。阿蘇郡長陽村の小高い山の上に、社会から隔絶されたように建っているのがそれ。そのほか観測所、観測点など中岳を中心に約二十四カ所、が配置されている。

建設されたのは、昭和三年、以来四十一年間阿蘇山の動向を直接観測するほか、阿蘇山を通じて地球物理学、地球化学、地球電磁気学の研究を続けてい。現在所員は、教授のほか十四人で日夜黙々と従事している。都会で、はなやかな脚光を浴びる仕事とは対照的なものだが、それだけに、敬意を表したくなる仕事ではある。火山の変動などの資料を象台へ速報、住民や観光客の安全を守っているのも、その世間に知られない陰の業務だそう。



▲ 山上一帯に装置されている小型地震計。このデータが山上の観測所へ送られる。



▲ 記録された資料は特殊研究装置によって分析される。



▲ 各地震計から送られてくるデータが山上の本堂観測所で集中的に記録される。

